



すでに1月20日をもって終了してしまったので、この冬にクオードの森のイルミネーションを見ることはもうできません。加茂地区にあって無料で提供されていたこのイルミネーションには多くの人たちが訪れました。子どもたちも多く、また国外からの人々も

おり、この森が提供する光の祭典を楽しんでいました。一緒に行った者も「それほどは思わなかった。これならお金を払ってもいい」と、堪能していました。

加茂里山通信

令和7年
新年号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貫造

クオードの森は生きている



市内から多くの人たちが訪れますが、実は加茂地区の人たちは案外見ていないようです。携わる人たちの高齢化もあり、次回開催が危惧されているという話も聞きますが、これだけの感動を与えられるものをまた味わいたい目に焼き付けたと思います。その時には加茂の多くの人たちにも、加茂にこんなに素晴らしい場所があるのを見てほしいと思います。

(征矢里山通信員)



入つてすぐに目に飛び込んでくるのはブルーを基調とし、漆黒の闇を背景に広がる魅惑的な光景です。このブルーの海の中を歩くことができます。そこからトンネルを抜けると、全く別な世界が広がります。ファンタジックな色彩にあふれ、メルヘンのような世界が出現します。ここでは色彩の構成が見事で子供たちを大いに喜ばせていました。そこからさらに先に進むと白い光に統一された上の写真の光景が、つ然と現れます。空宙に浮かぶ大きな球状のイルミネーションは圧巻で全体で芸術作品のようでした。どのように市中に吊り上げ、どのようにして球状を維持しているのか、全体のデザイン構成はどのように決められたのか、興味は尽きません。さらに右手側の階段を上っていくとそこにも色彩豊かな仕掛けがあります。各所が劇場のようであり、それぞれがテーマをもって見る人を魅了します。加茂地区にこんなに素敵で、このように見ることができると、素敵です。この場所があり、無料で開放されていることに驚きました。

国立国会図書館に收藏される



ある日、何の前触れもなく、加茂里山通信が国立国会図書館に收藏されるという連絡が来ました。バックナンバーの要望もあったので、創刊号からすべて送呈を続行しました。ご寄贈いただきました出版物は、広く公共の利用に供するとともに、国民共有の文化的資産として永く保存してまいります。『当館は日本国内で刊行される出版物を納本制度により広く収集し文化財として長く保存するとともに、図書館資料として利用に供しております。』

加茂里山通信

20年以上にわたる、加茂地区の様々なことを伝えきつた通信が、国民共有の文化的資産と言われるのは嬉しい気持ですが、もっとも堅牢な場所に長く保存していただけないかと思ひます。ただ、このことに浮かれることなく、これまで通り、地域に密着した発信を続けていきたいと思ひます。

(征矢里山通信員)

加茂学園は今

学園祭

10月26日(土)に学園祭が行われ、大勢の保護者・来賓の皆様が見守る中、生徒たちの思いのこもった発表が披露されました。英語スピーチ、前期ブロックの英語劇、中期ブロックのエイサー、後期ブロックの劇と



英語の歌、全校合唱、開会・閉会セレモニーと盛りだくさんの内容で、加茂の子どもたちの個性溢れる表現力や心のあたかさに、来場者からは惜しみない拍手が贈られていました。

子どもたちの対話ワークショップ

12月12日(木)に子どもたちの対話ワークショップが行われました。市原市教育委員会主催によるもので、生徒会本部役員が本校代表として市原市の将来について



館に集まって「物作りふれあい集会」を行いました。文化委員会の生徒たちが企画・運営し、1・9年生が縦割り班に分かれて工作を楽しみました。紙コップ等の身近な材料でできた「かめちく」に、生徒たちの笑顔がはじけました。

物作りふれあい集会



加茂学園では、小中一貫教育校としての利点を生かし、毎日の縦割り清掃に加えて、「ふれあい昼休み」や「ふれあい絵画」等といった異学年交流の機会を定期的に設けています。



9日(木)には、全校生徒が体育館に集まって「物作りふれあい集会」を行いました。文化委員会の生徒たちが企画・運営し、1・9年生が縦割り班に分かれて工作を楽しみました。紙コップ等の身近な材料でできた「かめちく」に、生徒たちの笑顔がはじけました。

グローバル教育を推進しています

加茂学園では、令和2年度から市原市教育委員会指定による「グローバル化推進校」、令和4年度から文部科学省指定による「英語課程特例校」として「グローバル・コミュニケーション科」を設置し、英語を中心にコミュニケーション力の育成に力を入れています。グローバル教育の取組については、加茂学園ウェブページ上でも紹介しています。以下のQRコードから御覧いただけます。



(遠山里山通信員)

宝船プレゼント

- 「大当たり賞」 3名様
- 「お年玉賞」 7名様
- 「超目玉賞」 6名様

計16名様に当たります。奮って応募ください。住所・氏名・電話番号と里山通信へのご意見・ご感想を添えて「宝船希望」と明記してハガキで応募下さい。



〒291 0081
市原市五井中央西1-22-25
市原商工会議所
「加茂里山通信プレゼント」係まで
締め切り 2月8日(土) 当日消印有効
2月16日(日) 午前11時
月崎の商工会議所加茂支部前へ行います。

当選の方には直接連絡いたします。賞品の引き渡し式は2月16日(日)午前11時月崎の商工会議所加茂支部前へ行います。取りに来られない方でご連絡のない方は無効となりますのでご了承ください。

編集後記



明けましておめでとうございます。よく晴れて穏やかな正月を迎えました。この辺の習わしに従って正月三日は日お雑煮を作りしました。同じものを毎日食べたくないの道具を少しづつ変え、味も日々変えて醤油味、みそ味、中華味にしています。正月三日は男が雑煮を作るといふ風習が今どのくらいに家庭に残っているかはわかりません。1年間食事の支度をしてくれるその家の女性たちを労い、正月は男たちが雑煮を作るといふ風習がいつから続いているのかもわかりませんが、正月に男子厨房に立つ、いい風習ではないかと思ひます。我が家ではこれからも続ける予定です。

クオードの森のイルミネーションに限らず、加茂地区の人たちはこの加茂にある、大福山から梅ヶ瀬に至る紅葉期の絶景や西川の賑わいを見ることが、高滝湖のボートに乗って釣りをする、湖畔美術館の作品やアートミックスの作品を見ることもあまりないのではないかと思います。

外からやってくる人たちの目線、地元に住って他に誇ることで暮らす意識、施設を見直してみよう。自分たちが実はとても恵まれたところにいることを発見するかもしれません。

暑い夏には涼しい秋の到来を待ち、寒い冬には暖かな春を待つ、そうして一年は過ぎていくのですが、厳しい寒さが続けば続くほど、春を待つ気持ちは高まります。

・今年が皆さんにとりまして良い年となりますように。

(征矢里山通信員)

皆様と共に歩む観光



7カサギ絶好調！
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

愛車のある幸せを暮らし応援します！安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

次回は4月20日発行予定です。

情報提供 取材依頼は近頃の通信員へ。メールでも受け付けます。

記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。

市原商工会議所

0436(22) 4305 担当 霜崎

Eメール Isao@toci.or.jp

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。
旧年中は、市原商工会議所及び加茂里山通信の活動に、多大なるご理解・支援を賜り厚くお礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本市の経済は、長続いたデフレマインドを払拭し、革新に果敢に挑戦する「成長地経済」の実現が急務です。そのためには、成長産業への投資、人材研究の確保、技術革新や省力化投資による生産性向上が重要です。中小企業においては、賃金引き上げなど厳しい努力が求められる中、商工会議所では、会員間の助け合いを促進し、共存共栄を目指した支援を行ってまいります。

また、急激な人口減少に直面する地域経済の再生・活性化には、地域の将来を担う稼ぐ産業の育成、若者・女性をはじめとする人材を惹きつける良質な雇用の創出、消費・投資を喚起する、まちなかの形成を通じて「地域経済循環」の強化が重要であり、この目標に向けて、私たちは地域の官民連携の中核として、社会課題の解決と経済成長の実現を目指し、地方創生と自己変革に向けた中小企業・小規模事業者への伴走型支援を続けてまいります。

特に、創業支援においては、創業しやすい環境づくりに注力し、創業後の販路開拓や情報発信の強化で、事業の拡大や充実を図っております。観光資源や産業の育成を進め、創業間もない方々と地域の経営者が交流できる場を提供し、相互のビジネス拡大につながる取り組みを支援してまいります。

さらに、地域の将来を担う人材を育成するために、市内の高等学校と連携し、地元企業への雇用促進を進めています。地域経済の発展と活性化を促すための活動を力強く展開し、続けてまいります。

結びに、本年も皆様の「一層のご支援」協力を心よりお願い申し上げますとともに、皆様の「健康と多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

市原商工会議所 会頭 榎原 義久

市原商工会議所 ニュース

第3回ビジネスオーデイション



1月22日(日)、五井グランドホテルにて「第3回ビジネスオーデイション」を開催しました。市内の創業者、新規事業に取り組み既存事業者8人が8分間のプレゼンに望みました。出場者同士の顔合わせから始まり、専門家との複数回に渡る個別面談、発表資料の作成、発表リハーサルを経て本番に臨みました。来場者には自社の事業に対する関心を引きつけるため、発表方法や各々が工夫を凝らし、個性豊かで魅力的な発表を行いました。

発表後には各ブースにて参加者との交流会を実施し、自身の事業についてPRを行いました。

「ビジネスオーデイション」とは市原商工会議所と(株)葉日報デジタルが展開する創業支援事業「市原未来創業プロジェクト」の集大成となるイベントです。

一即効性のある取引先の獲得・拡大を目的に、出場者は専門家のアドバイスを受け、磨き上げた自身の事業プランについて8分間でプレゼン。会場参加の全員がその表現を見て採点します。合計点数で順位を競うオーディション形式の審査会です。

第3回ビジネスオーデイションの審査結果は以下の通りです。(敬称略)

- 「ランプリ」合同会社ヴァンガード(小出誠)
- 「準グランプリ」フリースクールオリコス(三村晋也)
- 「ベストアクション賞」株式会社BIRDIEYE(板橋 穂、ママのお昼寝スポットゆめ実(念昌朝子)、ながれぼし(大東実和)、Progress Me(浅井恵)、ミラマスタ合同会社(鏡孝正)、一般社団法人かずさーズ(齋田清孝)

(深山里山通信員)

NONAの里山生活

加茂の秋から冬への行事

10月20日(日)に高瀬神社の例大祭が行われました。天気は良かったものの少し肌寒い日でした。コロナ明けから2回目となる神輿の渡御も行われ、鎮守の森からは太鼓や笛のお囃子、掛け声、様々なにぎやかなの声などが聞こえ、秋の高瀬を彩る祭りが盛大に開催されました。気になるのは神輿の担ぎ手が少しずつ少なくなっていることです。高齢化と若い担い手が足りないことなど、どこに地域にあっても問題化していることが三つの郷にもそれぞれあつて、人集めが大変になってきているようです。



11月3日(日)に、加茂公民館祭りが開催されました。天気にも恵まれ、快晴の中、多くの出店も出てにぎわいました。仲間と一緒にやっていった産直の品も気持ちいいほどどんどん売れました。

知った顔の人が次々とやってきて交流も広がります。この公民館祭りの最後には抽選会があるのですが、仲間の一人が1等賞に当たるというおまけもつきました。人との出会いがあり、賑わいのある祭りになりました。

11月23日(土)には加茂産直まつりが開催されました。この日も天気にも恵まれ、雲はあるものの穏やかな冬の日の開催でした。今年は手間を省くために軽トラックの荷台をそのまま販売の台にする形で行われました。積み下ろしや車の移動の手間も省けました。恒例のリングの詰め放題も行われ、また餅つきも行われました。風もなく穏やかな日差しの中で、テーブルのところに腰かけて餅をほおばる親子連れなど、いつもと同じようなほほえましい光景がありました。

こつもと紀行

湯原地区 土砂の崩落

令和6年6月19日に崩落した県道大多喜君津線国本地先が、暮れの12月28日に片側交互通行で解放されました。実に半年ぶりの通行開始です。地域の皆さんの不便は当然のこと、ゴルフ場をはじめとする観光客の皆さんには、長い間ご苦労だったことと思います。これまでの経緯の概要を振り返ってみたい。

- 6月19日(水) 午前6時過ぎ 第1回目の法面崩落。全面通行止めの交通規制
- 20日 崩落土砂の撤去作業開始
- 21日 2回目の崩落
- 22日 3回目の崩落
- 26日 4回目の崩落
- 7月16日(火) 松野博一 前内閣官房長官、伊豆倉県議 大曽根市議 現地視察



- 25日(木) 加茂公民館において地元説明会。8月中に市原市南部土木事務所による、う回路(市道7095線)応急整備(路肩整備、待避所増設、看板設置など)
- 9月25日(水) 第2回地説明会。(加茂公民館)
- 10月9日(水) 南部地域への住民説明会(折津公民館)

館

- 10月中旬 ロックシエットの安全点検
- 11月初旬から土砂の搬出開始
- 11月7日(木) 第2回南部地域への住民説明会(折津公民館)
- 22日 (金) 加茂公民館で地元説明会
- 28日 (木) 南部地域への住民説明会(折津公民館)
- 12月 12月からモルタル吹付
- 12月24日 国の災害査定
- 12月28日(土) 15時片側交互通行による交通開放



※片側交互通行は本復旧工事が終了するまで続きます。おそく、1年ほどかかるかもしれません。※信号機の故障や信号機を無視するような事がいって、規制区間が長いので混乱することも想定されます。現地はあくまでも仮復旧です。さらに災害が重ならないことを願っています。落石には十分に気を付けていただきたいと思います。



(大曽根R里山通信員)

国本町会防災訓練

国本町会独自の防災訓練が行われました。



訓練内容は①防災備品の確認と使用方法についての説明②消防署員による地震の講話③起震車体験④炊き出し訓練です。署員の講話の中では、倒れそうな家具のあるところでは寝ない、家具を固定する、3日分の備品の確保、停電の後の火事の注意、ブレイカーについて、地震の際に自動で停止してくれる器具の説明、起震車体験では、東日本大震災の揺れを体験しましたが、揺れている時間が長く強い揺れに驚きました。続いて炊き出し体験として、外の大釜でご飯を炊き、会館内でカレーを作り、食しました。災害時には地域の情報確認が大事であり、日頃からの声掛けが重要だと感じました。



(大曽根R里山通信員)

公民館祭りもそうですが、この産直まつりも主催する裏方の人たちの準備や片付けがあつて成り立っているわけで、毎年のことながら感謝したいと思います。田舎にあつてこうした地域に密着した催しが行われることはとても大事で、こうしたことを通じてたくさんの方の交流が生まれ、地域の活性化にも貢献していると思います。

トロッコ列車の汽笛が聞こえる



半年以上聞こえなかったトロッコ列車の汽笛が11月のある夜、久々に聞こえてきました。それから12月の初めまでの週末、トロッコ列車の走る姿を見、汽笛を聞くことができました。やはりあの汽笛はいいなと改めて思いました。作業をしている時でもある汽笛を聞くと、活気がわくような気がします。小湊線の走る音とともに、この地域ですでに生活の音になつていて、見なくてもトロッコ列車が走っているなと認識できます。いつも変わらない光景がそこに展開されているというのはいいものだなと思います。沢山の人たちが乗り込んで手を振る情景も3月から再開されるようで楽しみです。

加茂里山通信発行の原点

この里山通信が国立国会図書館に収蔵されるという知らせが来たことがそのころ、偶然に発行4年目の春号があるところから1部出しました。その中に、この通信を発行するに至った経緯、そしてこの通信発行のヒントとなったものについて書いた一節がありました。以下の通りです。

「この通信の発行には二つのことがヒントになりました。ひとつは雑誌『チルチンピ』に連載されていた

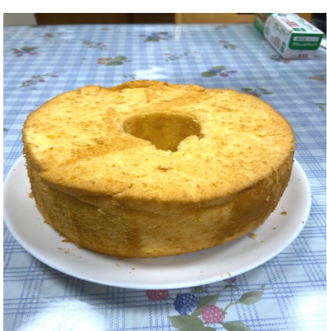
里山の暮らしNONA

季節を感じる食卓

「猿にやられて洗柿が全滅」

昨年は柿が不作で、数も少ない猿に猿がやられて洗柿まで食べられたので。柚子はたくさんあるので(今のところ)冬至のゆず湯用に収穫してあらに配り、残りはゆずジャムを作ります。柚子はきれいに洗ってから、熱湯にくぐらせ、横半分に切って種を除く。果汁は自家製ポン酢になります。鍋に入れて茹でます。15分位茹でて柔らかくなったら、ミキサーにかけます。鍋に移して砂糖を入れて煮る。材料の半分量の砂糖(お好みで)煮詰まったら瓶詰めにする。このジャムを使って『柚子シフォンケーキ』(21cm)薄力粉130g、砂糖90g、卵白60g、サラダオイル50g、水50g、柚子ジャム100g、卵黄6個分、卵白7個分

作り方
オーブンは180℃に温めておく。
乾いたボールに卵白を入れて泡立てる。砂糖60gを加えさらに泡立てる。
別のボールに卵黄と砂糖30gを入れてもつたりするまで泡立てる。
③のボールにサラダオイル、水、柚子ジャムを加えて混ぜる。



さらにふるって
おいた粉を加え、
混ぜる。
メレンゲを加え、
泡をつぶさないようにゴムべらで混ぜる。
シフォン型に流し、180℃で40分焼き、1

60℃に下げて20分焼く。
焼き上がったら、オーブンから取り出し、ビンなどの上で逆さまにして冷ます。
※オーブンによって焼き時間は加減してください。

人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して



杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311

市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511

南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL <http://www.sugita-group.com/>

『小魚とくるみのヘルシーおつまみ』

食べる小魚40g、くるみ30g、レーズン20g、砂糖大さじ3、水大さじ1

作り方
オーブンを140℃に温める。
天板にクッキングペーパーを敷いて小魚、くるみを入れる。
オーブンを140℃で5〜6分加熱する。
フライパンで乾煎しても可
オーブンから取り出し、紙に掛けて冷ます。
鍋に砂糖と水を入れ、火にかける。小さく泡立ち煮詰まってきた小魚、くるみ、レーズンを入れて混ぜる。
全体に混ざったら火を止めて箸でかき混ぜながら冷ます。
砂糖が白っぽくまわりについたら、紙に掛けて冷ます。
(大曽根R里山通信員)





HONDA

The Power of Dreams



— ホンダの夢 市原へ —

Honda Cars 市原

■ 五井中央店 電話 0436-24-1111(代)

■ 馬立店 電話 0436-95-5050(代)

HP: <https://www.hondacars-ichihara.co.jp/>

執筆者の名の下に里山通信員とあるのもこの当初の方針から来ています。20年を超えて続けてきて、果たしてこの目的にかなうものになったのか、そのところは読者の皆さんの判断にお任せするしかないのですが、その時々には一生懸命やってきましたつもりです。
(深山里山通信員)